

## I 単 元 持続可能な社会をめざして・序

～日本は小売店の深夜営業を禁止すべきである。是か非か。～

## II 目 標

1. 「小売店の深夜営業禁止」のディベートをジャッジすることなどを通して、客観的に議論を評価し判断しようとする態度を身に付けるとともに、市場と政府の関係や、持続可能な社会について関心を持つとしている。 (社会的事象に関する関心・意欲・態度)
2. 小さな政府と大きな政府、持続可能性などの概念で小売店の深夜営業の問題を捉え、公の視点からその是非について意思決定することができる。 (社会的な思考・判断・表現)
3. 資料から深夜営業のメリット・デメリットについての情報を抽出したり、議論のかみ合いが見えるフローシートを取ったりすることができる。 (資料活用の技能)
4. 市場に対する政府の役割について、小さな政府と大きな政府の観点から、その違いを説明することができる。 (社会的事象に対する知識・理解)

## III 指導にあたって

### 1. 生徒観

社会科では、「社会的事象を多角的に捉え、民主主義を尊重し、よりよい社会を求めて公正に意思決定できる生徒」を目指して授業を積み重ねてきた。生徒たちも3年生後半の半ばにさしかかり、目指す生徒の姿が授業の中でも十分に発揮されることを期待したい。

前単元では、「日本村の予算をつくろう」と題した財政教育プログラムの授業を経験した。日本を100人の村に見立て、歳入・歳出の各項目の増減を考えることで予算を編成する授業である。その中で生徒たちは、少子高齢化や教育、防衛など現在の日本の課題を踏まえて、大きな政府と小さな政府、短期的と長期的、実現可能性などの判断基準を見いだし予算を作成していた。これは、本校で目指している資質・能力のうち「場に応じて判断基準をつくる力」「知識や技能、経験の生かし所を見い出す力」が発揮された場面ともいえ、各教科で「判断基準」を大事にして授業を展開してきた成果でもあると考える。

一方、これまで、教科で育てる資質・能力のうち「その問題を可能な限り(価値を含む)広い文脈においてみることができる」については重点的に考えてこなかった。本単元では、この資質・能力を重点に据えながら、さらにこれまで培ってきた資質・能力を磨く授業を展開していこうと考える。

### 2. 教材観

東京書籍の教科書では、「これからの経済と社会」に当たる単元である。主に、地球環境・グローバル化と経済活動の関係をとり上げ、豊かな社会とは何かを考えさせる構成になっている。この単元と、次章「地球社会と私たち」、次々章「より良い社会を目指して」をひとまとめの単元にし、「持続可能な社会」をテーマに学習を展開する。開発教育協会では、SDGs(持続可能な開発目標)を基にした学習プログラムを多数提案しており、広く流

布している「貿易ゲーム」もその1つといえる。こうしたアクティビティを単元の中で複数経験しながら、市場原理にゆだねる社会のあり方を再検討し、持続可能な社会の実現に向けて、自分なりの考えを持つことができるような大単元を構成したい。最終的には、持続可能な社会について自分の考えを新聞への投書という形でまとめる単元を組もうと考えている。

本単元では、序として、労働市場について考えさせる。教材として用いるのは、今年度ディベート甲子園中学生の部準決勝のディベートである。論題は、「日本は小売店の深夜営業を禁止すべきである是か非か」。試合では、「過重労働の禁止」と「雇用機会の喪失」をめぐって議論が展開される。この議論をジャッジすることを通して、労働市場に政府が介入することの是非を考えさせ、SDGsの17の目標の1つにある、雇用の問題につなげていく。

また、教科横断的な学習として英語科と連携し、本単元で学習した内容を基にした英語ディベートを行うことを計画した。カリキュラム・マネジメントを意識した実験的な試みである。

### 3. 指導観 ～目指す生徒の姿に近付けるために～

本単元での授業における、資質・能力を発揮している生徒の姿を、以下のように考えている。

小売店の深夜営業の禁止について、小さな政府と大きな政府、持続可能性などの判断基準を見だし、公の立場から意思決定している。

#### (1) 本単元で付けさせたい資質・能力

本単元では、「あなたは、国会議員です。このたび、『小売店の深夜営業を禁止する法案』が提出されました。あなたは、この法案に賛成しますか。反対しますか。」という課題を設定する。国会議員という立場を設けたのは、経営者や消費者という立場ではなく、日本社会にとってという公の視点に立つての判断を促したいためである。また、特に、課題を解決するための材料として、ディベート甲子園での試合を実際にジャッジする活動を取り入れ、議論を精緻に聞き分けたうえで、意思決定させるようにする。この学習活動により、社会科で育てる資質・能力として挙げている「証拠や判断の基準となる価値に対立が生じた場合、合理的な判定ができる」「その問題を可能な限り（価値を含む）広い文脈でみることができる」力を付けさせたい。

#### (2) 留意点

学習を進めるにあたり、特に以下の点に留意する。

- ・ディベートの争点と主張の根拠を取り出しやすくするために、ワークシートに以下のリード文を設定する。

お疲れ様でした。\_\_\_\_\_な話し合いでした。議論を整理します。1つ目、( )側は、( )と主張しました。その根拠は、( )でした。これに対して、( )側は、( )と反論しました。その根拠は( )でした。この点については、( )側の言い分が勝っていると考えました。なぜなら、\_\_\_\_\_です。

- ・立論は、社会科の授業では行わず、英語の授業で行う。この単元の学習の後、英語科で、「コンビニエンスストアの24時間営業を禁止すべきである是か非か」の英語ディベートを行うことになっている。社会科では、立論の際に必要な資料や視点を提供するという単元構想にもなっている。
- ・振り返りでは、意見の変容に留意した振り返りを記述させ、議論を客観的に分析することの意義や、経済に対する見方や概念について触れた記述を積極的に評価していく。

#### IV 学習計画（6時間計画）

★本単元での授業における資質・能力の発揮につながる姿とそのための手立て

学習活動（時数）	目指す生徒の姿（観点）	教師の手立て
1. 学習課題を把握し、自分なりに小売店の深夜営業の是非について考える。（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に関心を持ち、自分なりに理由を示して考えようとしている。（関・意・態）</li> <li>・深夜営業を続けることの問題点や禁止することの問題点に気付いている。（思・判・表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題に関心が持てるように、SDGs TVの映像を提示する。</li> <li>・生徒が問題点を見だしやすいように、生徒が考えた理由を教師が整理しながら板書する。</li> </ul>
2. 資料を読み、深夜営業のメリット・デメリットを挙げる。（2）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料から、根拠を取り出し、深夜営業のメリット・デメリットのラベルを挙げている。（思・判・表）（資）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メリット、デメリットを見だしやすいように、複数の立場を明示したマトリックスを用意する。</li> </ul>
3. ディベートを聞き、ジャッジする。（2） 1 / 2 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・争点や主張の根拠がわかるようなフローシートを取っている。</li> <li>★争点を取り出して、その優劣を比較した上で、ジャッジしている。（思・判・表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・争点がわかるように、フローシートを2枚準備し、対立的に聞くことを促す。</li> <li>★争点を取り出しやすくするために、ワークシートにリード文をつける。</li> </ul>
4. 深夜営業の禁止の是非を決め、振り返りを書く。（1）	<ul style="list-style-type: none"> <li>★小売店の深夜営業禁止の影響を、雇用の問題や人権の問題にまでつなげて考えている。（思・判・表）</li> <li>★小さな政府と大きな政府、持続可能性などの判断基準に触れながら、公の立場から是非を決定している。（思・判・表）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★禁止の影響を広い文脈で捉えることができるように、公の立場から考えさせる。</li> <li>★判断基準を見だしやすいように、争点となったキーワードを板書する。</li> </ul>

<英語科で>

「コンビニエンスストアの24時間営業禁止すべきである是か非か」をテーマに、英語でディベートを行う。

## V 本時の学習

### 1. 目標

争点を取り出し、論証の正しさやメリット・デメリットの大小等を比較した上で、ジャッジすることができる。

### 2. 過程

学習活動【学習形態】	目指す生徒の姿	教師の手立て
1. 双方の第2反駁を聞き、フローシートを取る。【個】  2. ディベートのジャッジをする。【個】	<ul style="list-style-type: none"> <li>争点や主張の根拠がわかるようなフローシートを取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>争点ができるように、フローシートを2枚準備し、対立的に聞くことを促す。</li> </ul>
<p>&lt;重点を置いた社会科の資質・能力を発揮している姿&gt;  <b>★雇用機会の喪失の影響・過重労働解消の実現などの争点を取り出し、論証の正しさやメリット・デメリットの大小等を比較して、ジャッジしている。</b>            (例) 肯定側は、過重労働が深夜営業をやめることによって解決すると主張しました。根拠は韓国のコンビニのオーナーが、深夜営業をやめたことで生きた心地がしたということでした。これに対して、否定側は精神的な問題であり、過労死は減らないと反論しました。根拠は、深夜営業をやめたオーナーの週平均労働時間が4.9時間増えることでした。この点については、肯定側の言い分が勝っていると考えました。否定側の数値はあくまで平均であって、深夜営業で負担が解消するオーナーは少なからずいてメリットは成立すると思ったからです。</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>★争点に注目できるように、ワークシートにリード文をつける。</li> </ul>
3. 発表をいくつか聞き、ジャッジの参考にする。【全体】  4. もう一度自分のジャッジを練り直す。【個】	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分を取り出した争点や根拠と比べながら、発表を聞いている。</li> <li>主張や根拠の書き方を吟味している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>争点を比べやすいように、「雇用機会喪失の深刻性」「過重労働の解消」などの視点を板書して整理する。</li> <li>主張や根拠を的確に書けるように、机間指導で支援する。</li> </ul>

### 3. 評価とその方法

小売店の深夜営業を禁止した際の雇用機会喪失の影響の大小、過重労働の解消の実現など、具体的な争点を2点ほど取り出して、リード文に合うようにジャッジの文を構成できているかを、ワークシートから評価する。

## VI 成果と課題

実践を通しての成果（○）と課題（▲）は以下の通りであった。

- 議論のかみ合っている部分を抽出してジャッジすることができる生徒が多かった。例えば、以下のようなものである。

肯定側は、深夜の営業を止めることで店主の負担を軽減すると主張しました。根拠は、○○新聞のコンビニの店主が深夜営業をやめたことで生きた心地がしたという話でした。これに対して否定側は、24時間営業しない方が負担が大きいと反論しました。根拠は、24時間営業でない店の労働時間の方が24時間のところより長いという点でした。この点については、否定側の言い分が勝っていると考えました。なぜなら、24時間営業をやめても労働時間は過労死ラインを越えているし、生きた心地がしたという話は一人のものなので信ぴょう性が低いと判断したためです。

ディベートのジャッジでは、議論のかみ合っている部分に着目して、その優劣を判定する。基本的に、意見の応酬のない部分は判定の材料にしない。

生徒はこれまで、ディベートのジャッジの経験を3回積み、フローシートの取り方、ジャッジの仕方は身に付けている。しかし、今回のディベートはこれまで経験したものより議論が長く複雑で、議論のかみ合っている部分の取り出しに苦労している様子があった。

そこで授業者がとった手立ては、よく書くことができる生徒のモデリングである。机間指導をしながらモデルになる生徒を探して指名し、全体の前で読ませた。参観者からは、「あのタイミングで指名したのがよかった。『ああ、そう書けばいいのか』という声漏れて、書けるようになった生徒が多かった」という指摘があった。一般的な指導だが「教師の出」がうまく機能したと言える。その他、リード文をつける、ディベートを読み上げる時にフローシートを確認しながら読むなどの手立ても有効であった。



- 振り返りでは、ディベートの意義を肯定的に捉えるものが多かった。また、深夜営業の問題を自分事として捉える振り返りが多く見られた。例えば、以下のようなものである。

・客観的な視点から、ジャッジをしてみて、ある1つの同じ物事を見ている、否定側なのか肯定側なのか、その立場によって考えられるデメリットが変わってくることを強く感じた。大きな社会の中で生きていくとき、違う立場の人たちは大勢いるので、何が一番考慮する必要があることなのか、順位をつけていくことが大切だと思った。

・コンビニなどの24時間営業は当たり前のことと考えていたけど、人手不足や過重労働など深刻な問題になっていることがわかりました。僕の母が公務員で働き方改革などのことを最近勉強しているらしくその話をよく聞くし、最近テレビでも過重労働で自殺してしまった人のことがあったり、本当に日本が向き合わないといけない問題だと思うので関心を持っていきたいです。

普段、学習に消極的な生徒も本単元では前向きに思考する態度も見られ、論題が生徒にとって身近であったことが良かったと考えている。

- ▲否定側を勝ちとした生徒が33名であったが、実際のディベート甲子園では肯定側が勝利した。ジャッジの観点として、社会の未来像を描けているか、という観点もあるらしい。そうした要素を取り込めなかったことは反省点として残る。争点を取り出して優劣を付けるだけでなく、論者が作り出そうとしている社会という視点も、今後、ジャッジの要素として考えていきたい。